

アジア起業 先輩に学ぶ

沖繩の若手経営者らが外国で起業した日本人と手を結んでアジア進出を考える会を20日、設立する。「かつて日本本土とアジアの中継貿易で栄えた沖繩経済の黄金期の再来を」と夢は大きい。

設立されるのは「沖繩和僑会」。ITベンチャー、インデックス沖繩(沖繩県浦添市)の栗田智明社長(40)ら3人が幹事になって約60人に参加を呼びかけた。

沖繩の若手経営者結集

和僑は海外で活躍する中国人「華僑」にならった言葉で、外国で活躍する日本人起業家を指す。商慣習の違いなどを克服するため、和僑同士が情報交換しようとして04年に香港和僑会が誕生。今では中国・上海やモンゴル、シンガポールなどに広がった。

沖繩経済は公共事業削減などで苦境が続く。栗田社長は「飛躍にはアジアへの進出が重要。先輩である和僑のみなさんの力を借りたい」とねらいを話す。